

朝日新聞 16(H28).9.26

530

私の息子が誰だったか私が忘れてしまうことよりも、私の息子があなた達たちに忘れ去られること、それが、愛か  
なしい。

野田秀樹

自分とのつながりはついてもいい。それよりも、息子が仲間たちの心の中で、確かに、健やかに、友として生  
きながらえることを母は願う。ひとは誰かの思いの宛先であること、誰かにとってなくてはならない存在であると  
いう事実によって、はじめておのれの存在を得るのだから。劇作家の戯曲「逆鱗げきりん」（「新潮」3月号）から。